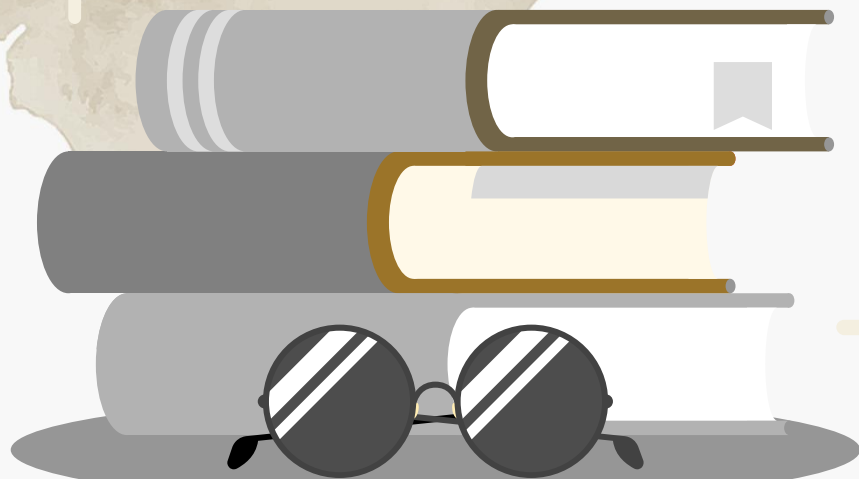


1 国語

# 文学教材を追求する 授業づくり

追求の授業をつくる会  
2023授業づくりセミナー（20230811）



## ウォーミングアップ 別紙プリント

知らない教材でもできる。  
一部分だけなのにできる。  
こんなに分かり切っている。  
それなのに何を教えたらいいの？  
(国語の授業の難しさ)



本当に分かり切っているのか？  
(ウラは読めていない)



- ④ ③ ② ①  
イ ウ いる。 哲夫の目はきらきら光って  
いる。
- ④ ③ ② ①  
ア 買 買 買  
大 大 大  
哲 哲 哲  
夫 夫 夫  
だ だ だ  
っ っ っ  
た っ っ  
の っ っ  
だ っ っ  
。

## 練習①

「これは、レモンのにおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんですよ。」

(中略)

「ほう、夏みかんてのは、こんなににおうものですか。」

「もぎたてなのです。きのう、いなかのおふくろが、速達で送ってくれました。においまでわたしにとどけたかったのでしょうか。」

「ほう、ほう。」

「あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」

信号が青にかわると、たくさんの車がいっせいに走り出しました。その大通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、しんしはおりていきました。

(「白いぼうし」小4年より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 ほりばたで乗せた紳士は、車中に広がるこのにおいが何のにおいなのか、全く予想もついていない。
- 2 松井さんは夏みかんのにおいがとても好きで、そのにおいをずっとかいでいたくて、車に乗せてきた。
- 3 いなかのおふくろは、松井さんにもぎたての夏みかんのにおいをかがせたいと思い、わざわざ速達で送った。
- 4 松井さんは、まさか夏みかんのもぎたてのにおいをかけるとは、思ってもいなかった。

## 練習①

「これは、レモンのおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんです。」

「もぎたて」「においまで届けたかった」「速達」ということを考えると、夏みかんのにおいは、すぐに消えてしまうことが分かる。つまりにおいのある間が「もぎたて」なのである。ここで「においも」ではなく「においまで」となっているのは、においを届ける可能性が低い、奇跡的なことであるということを表している。その奇跡を願ったおふくろの強い思いがかなったと、松井さんが感じていることが読み取れる。

た。においまでわたしにとどけたかったのでしょう。」

よ。」

く通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、

(「白いぼうし」小4年より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 ほりばたで乗せた紳士は、車中に広がるこのにおいが何のにおいなのか、全く予想もついでいない。
- 2 松井さんは夏みかんのにおいがとても好きで、そのにおいをずっとかいでいたくて、車に乗せてきた。
- 3 いなかのおふくろは、松井さんにもぎたての夏みかんのにおいをかがせたいと思い、わざわざ速達で送った。
- 4 松井さんは、まさか夏みかんのもぎたてのにおいをかけるとは、思ってもいなかった。

## 練習①

「これは、レモンのにおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんでした。」

「もぎたて」「においまで届けたかった」「速達」ということを考えると、夏みかんのにおいは、すぐに消えてしまうことが分かる。つまりにおいのある間が「もぎたて」なのである。ここで「においも」ではなく「においまで」となっているのは、においを届ける可能性が低い、奇跡的なことであるということを表している。その奇跡を願ったおふくろの強い思いがかなったと、松井さんが感じていることが読み取れる。

た。においまでわたしにとどけたかったのでしょう。」

よ。」

く通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、

(「白いぼうし」小4年より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 ほりばたで乗せた紳士は、車中に広がるこのにおいが何のにおいなのか、全く予想もついでいない。
- 2 松井さんは夏みかんのにおいがとても好きで、そのにおいをずっとかいでいたくて、車に乗せてきた。
- 3 いなかのおふくろは、松井さんにもぎたての夏みかんのにおいをかがせたいと思い、わざわざ速達で送った。
- 4 松井さんは、まさか夏みかんのもぎたてのにおいをかけるとは、思ってもいなかった。

## 読みの実態①

「これは、レモンのにおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いなかの夏みかんでしたか。」

「もぎたて」「においまで届けたかった」「速達」ということを考えると、夏みかんのにおいは、すぐに消えてしまうことが分かる。つまりにおいのある間が「もぎたて」なのである。ここで「においも」ではなく「においまで」となっているのは、においを届ける可能性が低い、奇跡的なことであるということを表している。その奇跡を願ったおふくろの強い思いがかなったと、松井さんが感じていることが読み取れる。

た。においまでわたしにとどけたかったのでしょう。」

よ。」

大通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、

(「白いぼうし」小4年より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 ほりばたで乗せた紳士は、車中に広がるこのにおいが何のにおいなのか、全く予想もついていない。 (8%)
- 2 松井さんは夏みかんのにおいがとても好きで、そのにおいをずっとかいでいたくて、車に乗せてきた。 (14.4%)
- 3 いなかのおふくろは、松井さんにもぎたての夏みかんのにおいをかがせたいと思い、わざわざ速達で送った。 (64.0%)
- 4 松井さんは、まさか夏みかんのもぎたてのにおいをかけるとは、思ってもいなかった。 (13.5%)

## 練習②

「お魚は……。」

そのときです。にわかには天井に白いあわが立って、青光りするまるでぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、いきなり飛び込んできました。

兄さんのかには、はっきりとその青いものの先が、コンパスのように黒くとがっているのも見ました。と思ううちに、魚の白い腹がぎらっと光って一ぺんひるがえり、上の方へ上がったようでしたが、それっきりもう青いものも魚の形も見えず、光の黄金のあみはゆらゆらゆれ、あわはつぶつぶ流れました。

二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。

(「やまなし」6年 より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 上の方へ上がった魚は、また姿を見せるはずであると、かへの兄弟たちは思っていた。
- 2 飛び込んできたものは、鉄砲玉のように目に見えないくらいのスピードであった。
- 3 二匹のかには、飛び込んできたものが青光することと、その先が黒くとがっていることを目で確認した。
- 4 二匹のかには、いきなり鉄砲玉のようなものが飛び込んできたことが恐ろしくて、声も出ないくらいになってしまった。

## 練習②

「お魚は……。」

最初、兄さんのかには鉄砲玉のようなものを冷静に観察していたのであるから、居すくまるくらいの恐怖はその後起こったことが分かる。「上がっていったようでしたが」の「が」が逆接であり、予想外を表す使い方をします。つまり、これまでの想定を超えたこと(=それっきり見えなくなった)が目の前で起こったことが分かります。それが恐怖につながったと読み取れる。

まるでぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、いきなり

ように黒くとがっているのを見ました。と思ううちに、魚の

とがって**が**、それっきりもう青いものも魚の形も見えず、

(「やまなし」6年 より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 上の方へ上がった魚は、また姿を見せるはずであると、かへの兄弟たちは思っていた。
- 2 飛び込んできたものは、鉄砲玉のように目に見えないくらいのスピードであった。
- 3 二匹のかには、飛び込んできたものが青光することと、その先が黒くとがっていることを目で確認した。
- 4 二匹のかには、いきなり鉄砲玉のようなものが飛び込んできたことが恐ろしくて、声も出ないくらいになってしまった。



## 練習②

「お魚は……。」

最初、兄さんのかには鉄砲玉のようなものを冷静に観察していたのであるから、居すくまるくらいの恐怖はその後起こったことが分かる。「上がっていったようでしたが」の「が」が逆接であり、予想外を表す使い方をします。つまり、これまでの想定を超えたこと(=それっきり見えなくなった)が目の前で起こったことが分かります。それが恐怖につながったと読み取れる。

まるでぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、いきなり

ように黒くとがっているのも見ました。と思ううちに、魚の

とがって**が**、それっきりもう青いものも魚の形も見えず、

(「やまなし」6年 より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 上の方へ上がった魚は、また姿を見せるはずであると、かへの兄弟たちは思っていた。
- 2 飛び込んできたものは、鉄砲玉のように目に見えないくらいのスピードであった。
- 3 二匹のかには、飛び込んできたものが青光することと、その先が黒くとがっていることを目で確認した。
- 4 二匹のかには、いきなり鉄砲玉のようなものが飛び込んできたことが恐ろしくて、声も出ないくらいになってしまった。

## 読みの実態②

「お魚は……。」

最初、兄さんのかには鉄砲玉のようなものを冷静に観察していたのであるから、居すくまるくらいの恐怖はその後起こったことが分かる。「上がっていったようでしたが」の「が」が逆接であり、予想外を表す使い方をします。つまり、これまでの想定を超えたこと(=それっきり見えなくなった)が目の前で起こったことが分かります。それが恐怖につながったと読み取れる。

まるでぎらぎらする鉄砲だまのようなものが、いきなり  
ように黒くとがっているのを見ました。と思ううちに、魚の  
とがったが、それっきりもう青いものも魚の形も見えず、

(「やまなし」6年 より)

○この場面の読みとりとして、最も適切なものを1つ選びましょう。

- 1 上の方へ上がった魚は、また姿を見せるはずであると、かへの兄弟たちは思っていた。 (5.4%)
- 2 飛び込んできたものは、鉄砲玉のように目に見えないくらいのスピードであった。 (10.8%)
- 3 二匹のかには、飛び込んできたものが青光することと、その先が黒くとがっていることを目で確認した。 (28.1%)
- 4 二匹のかには、いきなり鉄砲玉のようなものが飛び込んできたことが恐ろしくて、声も出ないくらいになってしまった。 (55.6%)

# 読みの壁

多くの授業が、このレベルの学習で終わっている

全体のレベル

場面のレベル

段落のレベル

文のレベル

言葉(単語)のレベル

この読みのレベルで分かっている(つもりになる)

この読みのレベルに到達できない

どう突破するか？



このレベルの学習に到達して、教材(作品)の価値に触れることができる

壁



## 練習④

二匹のかにの子どもらが、青白い水の底で話していました。

「クラムボンは 笑ったよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

「クラムボンは はねて笑ったよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

上の方や横の方は、青く暗く鋼のように見えます。そのなめらかな天井を、つぶつぶ暗いあわが流れていきます。

「クラムボンは 笑っていたよ。」

「クラムボンは かぶかぶ笑ったよ。」

「それなら なぜクラムボンは笑ったの。」

「知らない。」

つぶつぶあわが流れていきます。かにの子どもらも、ぽつぽつと、続けて五、六つぶあわをはきました。それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上っていきましました。

「やまなし」(光村六年)より

## 練習⑤

残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎませんでした。

それは、最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。

「大造じいさんとガン」(光村五年)より

## 読みの壁を突破する手掛かり

### 内容・文・言葉への違和感・謎・疑問をもつ(問題づくり)

- (登場人物は)なぜ、このようなことをするの？
- (登場人物は)なぜ、こうしないの？
- (登場人物は)なぜ、こんなことを言うの？
- (登場人物は)なぜ、こんな言い方をするの？
  
- なぜ、無くてもいいのに、わざわざこの言葉を使っているのか
- なぜ、他の言葉でもいいのにわざわざこの言葉を使っているのか
- なぜ、あえてこの言葉を書いているのか
- 「こ・そ・あ・ど」言葉の示しているものは何か
- なぜ、あえてこの言葉〈逆接の接続語、助詞、助動詞、副詞、形容詞など〉を使っているのか
- なぜ、わざわざ「 」として発話・会話にしてあるのか
- なぜ、倒置や繰り返し、強調などを使っているのか
- なぜ、同じ内容なのに違う書き方に変えてあるのか

登場人物の言動の謎を解決する過程で、言葉の謎の解決が必要となってくる。その結果、読みのイメージを変えることができる。名詞、動詞だけでなく、形容詞、副詞、助詞、助動詞接続詞等に至るまで、あらゆる言葉が、釈を変えるための手掛かりになる可能性がある。

等

## 問い(問題)を育てる重要性

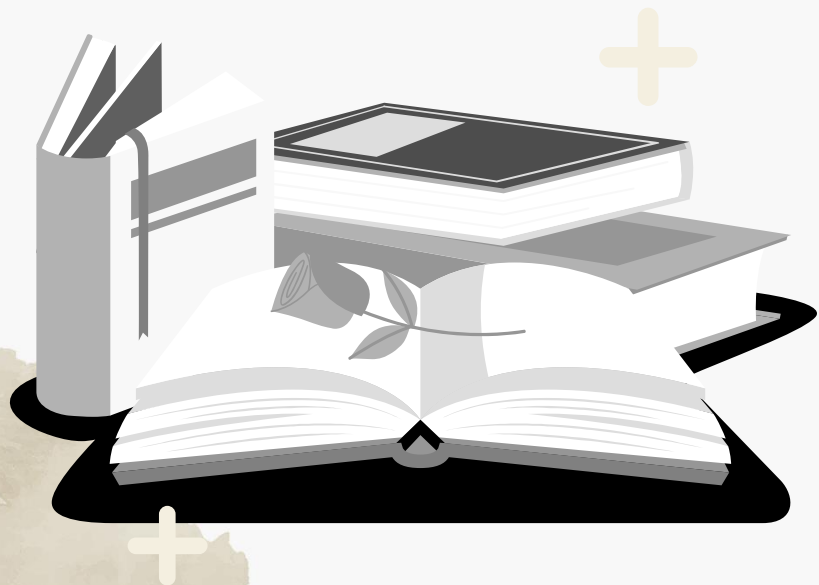
「良い問」の条件の第一は、それが**自分の発した謎**だということです。他人が発した謎、でき合いの謎では切実に迫ってこない。仮にでき合いだと謎だとしても、**自分が痛切に「おや、おかしいぞ、不思議だぞ」と思ったとき、それは良い問になる**わけですね。

二番目に大切なのは、謎をいかにうまく育てるかということです。どんな謎でも、最初は「不思議だなあ」といった漠然としたものにすぎない。それを**上手に「良い問」に孵化してやる**ことが大切です。

(中略)

一番大切なのは、謎を自分の心に銘記して、常になぜだろう、どうしてだろうと思いつける。思いつけて**謎を明確化、意識化する**ことです。そのためには、**自分の中に他者を作って、そのもう一人の自分に謎を突きつけて行く必要があります**。

丸谷才一 (2002)「思考のレッスン」



それでは演習！

授業づくりのための教材解釈

1「」

2「お手紙」



① がまくんは、げんかんの前にすわっていました。

② かえるくんがやって来て、言いました。

「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」

「うん、そうなんだ。」

がまくんが言いました。

「今、一日のうちのかなしい時なんだ。つまり、お手紙をまつ時間

なんだ。そうになると、いつ

もぼく、とてもふしあわせ

な気もちになるんだよ。」

「そりやどういうわけ？」

かえるくんがたずねました。

「だって、ぼく、お手紙も

らったことないんだもの。」

がまくんが言いました。

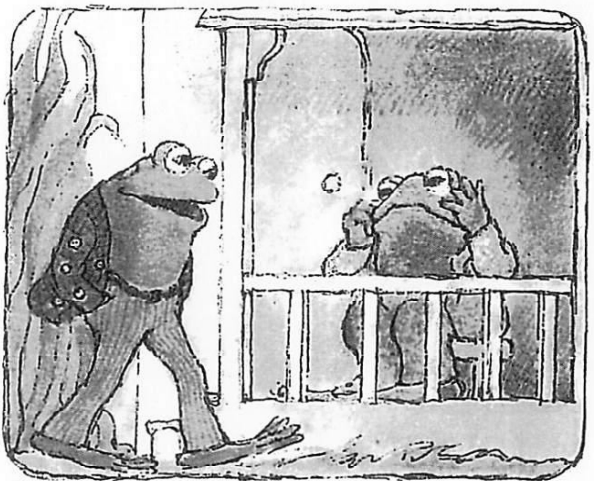
「いちどもかい？」

かえるくんがたずねました。

「ああ。いちども。」

がまくんが言いました。

「だれもぼくにお手紙なんか



くれたことがないんだ。毎日、

ぼくのゆうびんうけは空っぽ

さ。お手紙をまつている時が

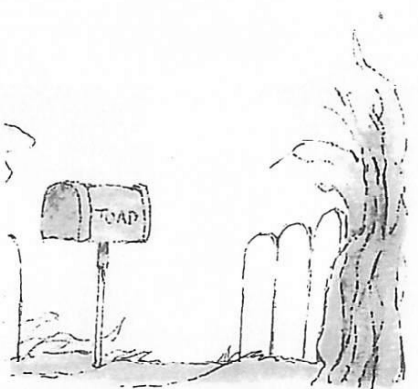
かなしいのは、そのためなの

さ。」

③ 二人ともかなしい気分で、げ

んかんの前にこしを下ろしてい

ました。



## 追求の授業(国語)

最初の読み(印象)

..... 壁

どうしても解決したいと思う必然性を生む(印象的な読みの壁を突破し、新たに解釈をする動機)

中心人物の言動についての「問題」を見つける。

「問題」について、考えをもつ。(想像)

(考えの違いの存在 ⇒ 議論の契機)

言葉についての「問題」を見つける。

言葉について吟味する。

中心人物の言動についての「問題」を解決する。(論理的解決)

授業後の読み(イメージ変化)

子どもが、言葉・文の事実の裏に隠された深い内容、教材の訴え、作者が伝えたいこと(意図)などを読み解くことを通して、最初の印象的な読みを、客観的な証拠に裏付けされた深い読みに変え、豊かなイメージをもって教材を理解する。

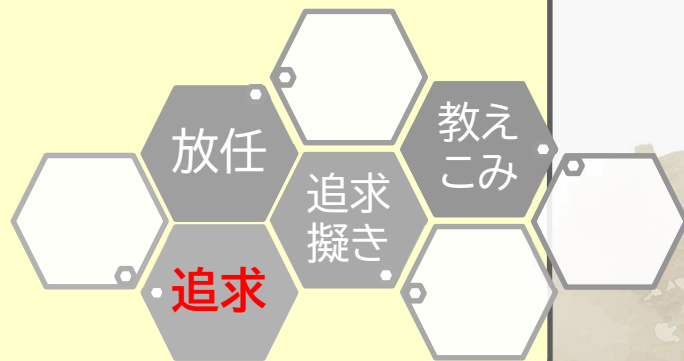
言葉への着目は、登場人物の言動の謎を解決する過程で必要となる

## 追求の授業とは

教師も子どもも真理・真実、また真理・真実に向かう願いとかをもっており、困難な課題を自分たちの目の前につくり出し、それに向かって教師を含めた学級全体が、みんなの力で突破し、壁をつき破って、真理や真実を発見する授業。

その困難な課題や壁(見えない・分からない・難しい)を内容として含んでいるのが教材。

国語や図工、体育、音楽などで、教材や事物、友だちの事実を対象にして、真理・真実に向かう困難を乗り越えていく過程を通して、自分の認識を深化・拡大させ、自分の可能性を拡大していくことができる。



## 追求の授業の目的

追求の授業によって獲得したもの、捉えたものの深さや豊かさ、困難を乗り越えた喜びなどに感動し、その感動を自ら表現することを通して、「自分が変わった。できた」という達成感をもち、「もっとできる。もっとやりたい」と新たな課題に挑戦し、自分を変革していく子どもを育てる。

それは、将来にわたって、事実を見て、事実在即して考え、課題を解決し、イメージをもって行動する人間になるための礎となる。

「人間は誰でも、無限の可能性を持っているものであり、自分をより豊かに成長させ拡大し変革していきたいというねがいを持っている」

(斎藤喜博)